名古屋大学附属図書館医学部分館における情報リテラシー教育の支援

安井裕美子
名古屋大学附属図書館医学部分館

1. 沿革

名古屋大学大学院医学系研究科では，情報リテラシー教育を目的とした科目が設置されている。科目名は数回変更されており，現在の名称は「大学院基盤医科学実習：文献検索」である。責任者は医学部分館長であるが，初年度から図書館職員が全面的に協力してきた。

2. 実施状況

初年度（1985 年度）の受講者は 8 名であり，Index Medicus や医学中央雑誌といった冊子体の二次情報データベースについて講義・実習を行ったとされている。その後，履修登録者は増加し続けており，2003 年度は 181 名，2004 年度は 183 名であった（ただし単位取得者はそれぞれ 120 名，103 名である）。

集中講義の形式で実施されており，当初は医学部分館で講義・実習を行っていたが，受講者が増えるにつれ，講義室等を使用することとなった。2003 年度には 52 台の PC が同時に使用できるコンピュータ室が新設されたことにより，受講環境が改善された。

講義・実習の対象も，冊子体から CD-ROM，コンピュータネットワークを利用した二次情報データベースへと変化した。現在は Ovid MEDLINE®や PubMed，医中誌 WEB を中心としたオンラインデータベースにおける文献の検索と，その結果に基づいた一次資料の入手方法について講義・実習を行い，課題の提出をもって修了としている。

3. 受講者による評価

実習の終了後にアンケートの提出を求めた。講義・実習について，データベースごとに満足・不満足を尋ねたところ，2003 年度は 90.9～98.3%，2004 年度は 89.1～99.0%の受講者が満足であると回答している（回収率はそれぞれ 100%，99.0%である）。

4. 考察

医学部分館の常勤職員は 2，3 年で他部局の図書館（室）へ異動することとなっており，講義・実習に必要な技術・知識・情報が蓄積されにくいという問題がある。また，この科目は情報リテラシーの中でも文献の検索という狭い範囲を扱っており，大学院生の研究活動に不可欠であるが十分とは言えない。修了後の受講者支援も，課題のひとつである。

この科目への協力は，「文献検索は図書館職員の専門的職務である」という志をもって始められたと聞いている。初心を忘れぬよう心がけたいものである。

[参考文献]
・安井裕美子．図書館員による情報リテラシー教育支援：医学部分館の取り組み．名古屋大学附属図書館研究年報．no.2，2003，p.25-30.